

平成17年度に向けた科学技術の 戦略的重点化について（案）

平成16年4月15日

※検討中のものを現時点で取りまとめ

目 次

1. 平成17年度に向けた基本的考え方・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2. 科学技術の戦略的重点化・・・・・・・・・・・・・・・・	4
(1) 基礎研究の推進・・・・・・・・・・・・・・・・	4
(2) 国家的・社会的課題に対応した研究開発の重点化・・・・・・・・	4
①重点4分野・・・・・・・・・・・・・・・・	5
1) ライフサイエンス・・・・・・・・・・・・・・・・	5
2) 情報通信・・・・・・・・・・・・・・・・	6
3) 環境・・・・・・・・・・・・・・・・	6
4) ナノテクノロジー・材料・・・・・・・・・・・・・・・・	7
②その他の分野・・・・・・・・・・・・・・・・	7
1) エネルギー・・・・・・・・・・・・・・・・	7
2) 製造技術・・・・・・・・・・・・・・・・	8
3) 社会基盤・・・・・・・・・・・・・・・・	8
4) フロンティア・・・・・・・・・・・・・・・・	8
(3) 国力の根幹を充実する基盤として必要な重要科学技術の精選・推進・・・	9
(4) 経済活性化のための研究開発プロジェクト	
(みらい創造プロジェクト)の推進・・・・・・・・・・・・・・・・	9
(5) 安心・安全な社会を構築するための科学技術の	
総合的・横断的な推進・・・・・・・・・・・・・・・・	10
別表・・・・・・・・・・・・・・・・	11

平成17年度に向けた科学技術の 戦略的重点化について（案）

1. 平成17年度に向けた基本的考え方

現在は、技術の大変革時代であり、目まぐるしく進展する科学技術が、社会や産業の構造に大きな変化をもたらしている。世界的に見ても、科学技術が国力の根幹であるとの認識が定着し、欧米先進国はもちろん、成長著しいアジア諸国においても科学技術への投資を強化しており、先端技術分野におけるこれらの諸外国と日本との国際競争は激化の一途をたどっている。この競争に生き残っていくためには、絶え間ない技術革新の創出とこれを担う人材の育成が不可欠である。

さらに、我が国は、急速な少子高齢化や経済のグローバル化の中で、以下のような喫緊の課題に直面しており、これらの課題に対応するためには、科学技術の活用が極めて有効である。

- 社会・経済の構造変化に対応した我が国の新たな発展基盤の形成
 - 世界、特にアジアにおける日本のリーダーシップ確保と地域全体への貢献
 - 国際競争力の確保、景気実感の回復、地域の更なる活性化
 - 安心・安全な生活の確保
- 等

科学技術に対する投資に目を向けると、科学技術関係予算は年々増加し、年度毎の政府研究開発投資の対GDP比（フロー）は、ようやく欧米主要国に比肩するところまで到達した。一方、科学技術への投資が成果に結びつくには相応の時間を要することが多く、絶え間ない技術革新を創出するには継続的な投資の蓄積（ストック）が極めて重要であるところ、1970年代から90年代の我が国のストックと欧米主要国のストックを比較すると、引き続き、その充実が必要な状況にある。

以上で述べてきたように、資源の乏しい我が国が、厳しい国際競争の中で、諸課題を解決しながら持続的に発展していくためには、科学技術を発展の軸として、これまで以上に科学技術に重点的に投資して科学技術創造立国を実現することが不可欠である。

なお、科学技術の推進の原動力となる人材については、長期的な観点からの育成と適切な登用が不可欠であり、特に、人材育成に関して重要な役割を担う大学が、国立大学法人化といった変革の時期に競争的環境を一層醸成していくことが重要である。

平成17年度は、科学技術基本計画（平成13年3月30日閣議決定、以下、「基本計画」という。）の最終年度であると同時に、次期科学技術基本計画の方向性を定める重要な年である。従って、上記のような認識の下、総合科学技術会議を中心として、基本計画に掲げる諸目標の達成に向けて、科学技術関係施策への取組を加速化しなければならない。特に、科学技術関係施策への政府投資については、戦略的重点化を進めつつ、強化・充実を図ることが必要である。その際、自由な発想に基づく基礎研究と成果につながる研究開発プロジェクトとのバランスや海外（特にアジア）との連携・協力の強化に留意する。また、「選択と集中」を徹底し、限りある研究開発資源を効果的・効率的に活用する科学技術システム改革や府省間の縦割りによる弊害排除・連携強化に取り組むことが不可欠である。以上の考え方に基づき、具体的には次に述べる具体的な方向性に沿った施策を重視する。

①我が国の発展基盤となる研究開発の着実な推進

知の創造と活用の源泉となる質の高い基礎研究を競争的環境の下で推進する。特に、その主要な担い手である競争的研究資金について、倍增目標に向け、相当規模の拡充を図る。また、我が国の国力の根幹を充実する基盤として必要な研究開発であって、長期的な国家戦略の下、国として責任を持って取り組むべき重要科学技術を精選し、平成18年度以降の本格的な推進に継承する。

②我が国の経済を活性化し国際競争力を確保する科学技術活動の推進

重点分野においても、特に我が国が進んでいる、或いは強みを有する分野を特定し、今後、重点的に投資する。また、現在進行している経済活性化のための研究開発プロジェクト（みらい創造プロジェクト）を積極的に展開する。さらに、地域における科学技術振興の質的・量的な充実を図る。

③安心・安全な生活を実現する科学技術活動の推進

高齢化社会における健康の増進、感染症対策、食の安全確保、犯罪防止などの個人生活の安心と安全、ITの安全性・信頼性向上、災害対策などの経済・社会の安全、水際における監視・取締りやテロ対策などの国の安全に関する研究開発を、国際的な視点を踏まえつつ強化し、平成18年度以降の本格的な展開に継承する。

④科学技術システムの改革等

評価の着実な実施、科学技術関係施策の優先順位付け等、知的財産の戦略的活用、産学官連携の推進、研究開発型ベンチャーの振興など、これまで進めてきた科学技術システム改革を着実に進める。また、世界的な競争環境の中で活躍できる科学技術関係人材の育成・確保や大学の国際競争力を強化するための改革の推進等への取組を進め、平成18年度以降の取組に継承する。

2．科学技術の戦略的重点化

(1) 基礎研究の推進

- 知の創造と活用の源泉となる質の高い基礎研究を、競争的環境の下で推進していくことが重要。
- 科学技術関係予算に占める基礎研究の位置付けを明確にした上で、公正で透明な評価を行い、世界最高水準の研究成果や社会経済を支える革新的技術をもたらすものを重視。
- 若手研究者など次代を担う人材の育成と一体として、大学等における基礎研究を推進。
- 基礎研究の推進にあわせ、研究者は自らの基礎研究活動について積極的に社会への説明責任を果たすべく努力。
- ビッグサイエンス（大きな資源の投入を必要とするプロジェクト）については、基礎研究全体の中でのバランスに配意。その上で、個々のプロジェクトについてグローバルな観点からの評価とともに、費用対効果を厳格に検証し、その実施や継続の適否について、専門的な立場からとともに、国民的な観点も踏まえて判断し、我が国の発展の源泉となるものについて、効果的・効率的に推進。

(2) 国家的・社会的課題に対応した研究開発の重点化

国家的・社会的課題に対応した研究開発の分野として、特に重点を置くべき分野は、ライフサイエンス、情報通信、環境、ナノテクノロジー・材料の4分野（以下「重点4分野」という。）であり、他分野に優先して研究開発資源の配分を行う。

各分野の研究開発については、平成13年度からの5年間にわたる、研究開発の重点領域、研究開発目標及び推進方策の基本的事項を定めた「分野別推進戦略」（平成13年9月21日総合科学技術会議決定）に基づいて、着実な推進を図る。その際、国際的な

観点から、科学技術分野における我が国の役割・位置付けを十分に踏まえ、我が国が進んでいる、又は強みを有する分野・領域を特定し、重点的に推進することが必要である。

また、従来の分野別の施策を立体的にとらえ、分野融合領域を重視し、先見性・機動性をもって施策と推進体制を強化する。

さらに、科学技術活動を展開していく上での研究開発ツールの重要性に鑑み、最先端の研究開発のための分析や計測の技術・機器等の研究開発を進めることが重要である。

以上の考え方にに基づき、重点4分野とそれ以外の分野において、最新の動向も踏まえ、平成17年度に特に重点的に推進すべき領域・事項は以下のとおりとする。また、それぞれの分野全体における重点領域・事項は別表のとおりとする。

①重点4分野

1) ライフサイエンス

- ヒト全ゲノムを始め様々な生物のゲノム配列解読による遺伝子機能研究や生体分子間相互作用研究等の活性化を受け、ゲノム情報に基づく基礎的研究を充実するとともに、特にゲノムネットワーク、プロテオーム等のポストゲノム研究をより一層推進。これらの成果を個人の体質に合った医療等の実現、統合生物学の確立等に応用する研究を強化。
- 世界でのイニシアチブを確保すべく、日本が優位な分野である cDNA、タンパク、SNPs、糖鎖等を総合的に活用する研究を重視。
- 情報通信やナノテクノロジーとの分野融合領域の研究開発、特にバイオインフォマティクスや細胞シミュレーション技術等の開発、世界に先駆けた先端的計測・分析技術、機器の研究開発を推進。
- 個人の健康の安心・安全の分野では、高齢化社会における健康の増進を目指し、がんや生活習慣病などの疾病の予防、診断、治療に向けた研究や、脳やこころの研究を推進。新興・再興感染症の研究や生体の防御機構の研究、バイオテロリズム

ムへの対策等を強化。

- 個人の食生活の安心・安全の分野では、イネゲノム研究等の成果を、安定的な食糧供給、高機能食品開発等に結びつける研究とともに、食の安全確保のための研究を推進。
- 個人の生活環境の安心・安全の分野では、生物の有用な機能の解明を進めるとともに、その機能を応用したバイオプロセスや有用物質生産等の研究を推進。

2) 情報通信

- 情報通信分野の技術革新が世界的に進む中で、個人生活や社会・経済活動の情報通信への依存が飛躍的に高まってきており、ITシステムの安全性・信頼性の一層の向上が急務。
- 厳しい国際競争において我が国がイニシアチブを得られるよう、情報通信分野の研究開発を国際的ベンチマーキングに基づき強力に国家戦略として推進し、その成果を世界標準に積極的に反映。
- ユビキタスネットワークによる安心・安全で快適な生活の実現に向けた、ネットワーク基幹技術、コアデバイス技術等の研究開発を促進。
- 次世代のブレークスルーをもたらすと期待される基礎的領域ないし融合領域の研究開発を長期的視点に立ちつつ強化するとともに、広範な研究開発分野の基盤となる技術等の研究開発及び実証を推進。
- 情報通信分野の中でも特にソフトウェア技術開発やセキュリティ技術の高度化を担う優れた中核的人材の育成強化が重要。

3) 環境

- 人間を含む生態系の成立基盤を脅かす環境問題の解決、及び自然と共生した持続可能な社会の構築に向け、地球温暖化、ゴミゼロ型・資源循環型技術、自然共生型流域圏・都市再生技術、化学物質リスク総合管理技術、及び地球規模水循環変

動の各領域の研究開発を推進。

- 地球温暖化防止及び我が国の技術優位確保の観点から、省エネルギー技術（特に運輸部門、民生部門）、新エネルギー技術、二酸化炭素の分離・回収・固定・隔離・再利用技術、森林等生態系による二酸化炭素吸収強化技術の研究開発を推進。
- 地球観測サミットの開催等、地球環境問題に係る世界的な取組の進展と「今後の地球観測の取り組みの基本について（中間とりまとめ）」を踏まえ、地球温暖化・全球水循環変動に係る統合的な観測システムの構築を推進。

4) ナノテクノロジー・材料

- 継続して競争優位を確保するため、カーボンナノチューブ、光触媒に続く新たな物質・材料の発見等を目指す基礎研究と、ナノ加工技術、評価・計測、シミュレーション技術等の基盤技術を推進。
- 情報通信、環境、バイオ領域でナノテクノロジーを採り入れた研究開発が具体的成果を産みつつあり、用途を鮮明にした分野融合の取組を更に推進。
- 成果の事業化、産業化まで研究開発と環境整備の全ての段階における関係府省の連携を目指し、平成16年度に着手した、薬物送達システム（DDS）などの府省「連携プロジェクト」を着実に推進。
- 安心・安全な社会の構築に備え、ナノテクノロジーが社会や人間に及ぼす影響・波及効果を把握し、必要な対応を講じるための調査検討に着手。

②その他の分野

1) エネルギー

- エネルギー・セキュリティ確保及び地球温暖化防止の観点に立ち、安全で安定したエネルギー需給構造を実現するため、

エネルギーのシステム及びインフラの高度化、エネルギーの安全・安心の確保、エネルギーの社会的・経済的な評価・分析に関する研究開発を推進。

- 「エネルギー基本計画」、「地球温暖化対策推進大綱」の見直し等を踏まえ温室効果ガスの排出抑制に資するとともに、我が国の技術優位を確保するため、燃料電池、水素製造・供給システム、バイオマス利活用、核融合等に係る研究開発を推進。

2) 製造技術

- 製造業の国際競争力強化に向けて、日本独自の強みを発揮できる低コスト・高付加価値化製造技術、環境負荷の少ない製造技術等の研究開発を推進。
- 少子高齢化等の社会構造の変化に対応して、製造業における安全の確保、卓越した技能の継承等に寄与する研究開発を推進。

3) 社会基盤

- 国際・凶悪化するテロ、組織的犯罪等の脅威、過密都市圏での複合的な巨大災害等に対応し、総合的な安全保障・危機管理に資する具体的な科学技術の応用実証と基盤的な研究開発を推進。
- 大規模構造物や重要なライフライン等の社会基盤を長期間にわたり適切に維持・管理するための研究開発を推進。

4) フロンティア

- 昨今の情勢を踏まえ、安全の確保に資する宇宙開発利用の推進と基幹技術としての宇宙輸送系・衛星系の信頼性向上。
- 宇宙・地球分野における基礎的・基盤的研究開発の推進と新たなフロンティア領域の開拓。

(3) 国力の根幹を充実する基盤として必要な重要科学技術の精選・推進

- 我が国が真の科学技術創造立国を実現するため、国力の根幹の充実に必要であって、長期的な国家戦略の下、国として責任を持って取り組むべき重要な科学技術を今後精選、平成18年度以降本格的に推進。
- 平成17年度においては、
 - ・多様多彩な基礎研究等の発展に寄与し、科学技術の画期的発展の突破口となる超高速計算機及びその利用技術の開発
 - ・国の安全確保に資する衛星系・輸送系宇宙開発技術等について、検討を実施。

(4) 経済活性化のための研究開発プロジェクト（みらい創造プロジェクト）の推進

- 我が国の産業界、大学等の英知、技術力、資金力を結集し、府省の枠を超えた協力の下、世界に通用する技術革新を生み出す研究開発プロジェクトとして取組が進められている経済活性化のための研究開発プロジェクト（みらい創造プロジェクト）を強化・充実。これにより、国際競争力の強化と経済の活性化を実現するとともに、研究開発による我が国の構造改革を推進。
- プロジェクトは、比較的短期間で実用化が期待されるものを積極的に推進する。また、実用化まで比較的長期間を要するものであっても、次代の産業基盤の構築に資することが期待されるものを併せて推進。
- プロジェクトの検討に際しては、以下の点を重視。
 - ・内外の研究開発動向や社会経済情勢の変化、重点4分野等への更なる重点化や各種政府方針を具体化したテーマ設定

- ・技術革新による相当規模の経済活動の活性化及び雇用の創出
- ・研究開発・成果活用に関わる府省の協力関係の構築
- ・産学官の明確な役割分担
- ・研究開発・設備投資等における産業界の人的・資金的負担
- ・研究開発期間を通じてプロジェクトの運営に責任を持って携わるプロジェクトリーダーの存在

（５）安心・安全な社会を構築するための科学技術の総合的・横断的な推進

○国内外の政治・経済・社会における急激な情勢変化を踏まえ、顕在化する脅威の抑止、被害の低減のための取組を強化。

・国の安全

テロ（NBC（核・生物・化学）等）の脅威、国境・水際管理等への対策

・経済・社会の安全

サイバーテロ・犯罪の脅威（IT ネットワークへの侵入、個人情報的大量漏洩等）、過密都市圏の脆弱性の増大等への対策

・個人生活の安全

新興・再興感染症の突発的な発生・食の安全、凶悪・新しいタイプの犯罪の増大等への対策

別表

【ライフサイエンス】

- (i) 安心・安全で活力ある長寿社会を実現するための疾患の予防・診断・治療技術の開発
 - ゲノム、タンパク質、糖鎖等の構造・機能及びそれらの形成するネットワークの解析とこれに必要な基盤的データベースの整備、その知見に基づく個人の特性に応じた医療と創薬
 - 再生医療・遺伝子治療等を中心とした新しい治療
 - がんの予防・診断・治療、アレルギー疾患等の予防・診断・治療、プリオン病、新興感染症等の診断・治療、バイオテロリズムへの対応
 - こころの発達と脳に関する基礎的研究、こころの病気、教育が脳機能に与える影響に関する研究、アルツハイマー等神経疾患等の予防・診断・治療
- (ii) 食料供給力の向上及び食生活の改善に貢献する食料科学・技術並びに有用物質の生産・環境対応に関する技術の開発
 - イネ等のポストゲノム研究と食品の安全性確保、安定供給、機能性食品の開発
 - 微生物・動植物を用いた有用物質の生産と環境対応技術の開発
- (iii) 萌芽・融合領域の研究及び分析・計測のための先端的技術・機器の開発、先端研究成果を社会に効率よく還元するための研究の推進と制度・体制の構築
 - 情報通信技術やナノテクノロジー等との融合領域、生命情報科学、システム生物学、細胞シミュレーション技術、バイオイメージング技術、画像診断技術、医療機器、遺伝子・タンパク質等の分析・計測のための先端的技術・機器（試薬、情報処理技術を含む）
 - 基礎研究の臨床への橋渡し研究・治験等の臨床研究
 - 医薬品・医療・医療機器・食品・遺伝子組換え生物のリスク評価等に関する研究
 - 研究開発の基礎となる生物遺伝資源の整備

【情報通信】

(i) ネットワークがすみずみまで行き渡った社会への技術

- 情報家電やセンサーなど多種多様で膨大な機器・端末の相互接続・運用・制御技術、光ネットワークや無線等による高信頼な超高速モバイルインターネットシステムを実現する技術
- 高機能・低消費電力の半導体素子、平面画像表示装置、記録・記憶装置等の基盤的技術
- インターネットの信頼性強化に資する安全性（セキュリティ）技術、ソフトウェアの信頼性・生産性向上等技術、状況認識技術、情報格差解消等（ヒューマンインターフェース）技術、情報蓄積・加工・検索技術、コンテンツ技術、分散コンピュータ等による高信頼サービス提供技術

(ii) 次世代の突破口、新産業の種となる情報通信技術

- 量子工学技術、生体機能等の新しい原理・技術の活用
- ロボットや、ナノ技術、生命科学、宇宙通信などとの融合領域

(iii) 研究開発基盤技術

- 分散する計算機資源を高速回線で結び、高い計算能力を確保するネットワークシステム及び超高速ネットワーク技術
- 自然現象等の複雑な現象をコンピュータ上で模擬する手法である計算科学技術

【環境】

(i) 地球温暖化研究

- 省エネルギー技術、新エネルギー技術、二酸化炭素の分離・回収・隔離・再利用技術、森林等生態系による二酸化炭素吸収強化技術
- 温暖化総合モニタリング、気候変動予測技術の高度化、温暖化影響評価・抑制政策、研究情報システム

(ii) ゴミゼロ型・資源循環型技術研究

- 循環型社会形成推進シナリオ、研究情報システム
- 生産・消費両面での廃棄物発生抑制技術、資源循環システム化技術、リサイクル施設の安全対策等

(iii) 自然共生型流域圏・都市再生技術研究

- 環境観測・診断・評価データの一元管理技術、再生シナリオ

○流域圏・都市の環境負荷軽減・環境修復のための物理的・化学的・生物的技术開発

(iv) 化学物質リスク総合管理技术研究

○リスク評価・管理やリスクコミュニケーションのための有害性、暴露、環境中存在量・挙動等情報の取得・収集、データベース化など、知識の体系化

○生態系影響評価、個人の感受性に関わるリスク評価・管理手法、総合的なリスク評価・管理手法、リスク削減対策技術と技術評価手法

(v) 地球規模水循環変動研究

○全球水循環観測、予測精度向上と信頼性評価、水循環変動の食料・水資源・生態系・社会影響評価、水循環情報システム

○適切な水管理のための技術開発・技術評価・事例研究

【ナノテクノロジー・材料】

(i) 次世代情報通信システム用ナノデバイス・材料

○半導体微細加工等に必要な材料・プロセス技術、通信用素子及び装置、並びに関連材料の研究開発

○次世代メモリー用等単電子素子、分子素子等の新原理デバイス、量子コンピュータ・通信用素子並びに材料等の研究開発

(ii) 環境保全・エネルギー利用高度化材料

○ライフサイクル全体の環境負荷を考慮した新エネルギー・省エネルギー用の材料や触媒の研究開発

○有害物質の監視・除去技術などの研究開発

(iii) 医療用極小システム・ナノバイオロジー

○薬物送達システム（DDS）や診断・治療機器等のナノテクノロジーを応用した医療に関する研究開発

○生体分子の構造等を計測・解析し、その動作原理を半導体装置・材料に応用するナノバイオロジーなどに関する研究開発

(iv) 計測・評価、加工、数値解析・シミュレーション等基盤技術

○ナノ精度で任意の材料を計測・評価する技術・機器及び加工、製造する技術の開発

○微小電気機械システム（MEMS）を含む微小機械（マイクロマシン）

技術の研究開発

○計算機を活用した材料・工程設計技術の研究開発現場への普及
(v)革新的な物性、機能を付与するための物質・材料技術

○物質科学の推進と、カーボンナノチューブや超鉄鋼に見られるような、組織・構造を高度に制御した革新的機能物質・材料の探索や開発、あるいは、先進的複合材料などの研究開発

【エネルギー】

(i)エネルギーのシステム及びインフラを高度化していくために必要な研究

○燃料電池、水素製造・供給システム、低コスト太陽光発電、液体燃料変換、バイオマス利活用、核燃料サイクル、核融合

(ii)エネルギーの安全・安心のための研究

○原子力、水素利用等の安全対策技術

(iii)エネルギーを社会的・経済的に評価・分析する研究

○原子力の社会受容性（パブリックアクセプタンス）、省エネルギー・新エネルギー利用推進インセンティブ、エネルギー関連技術の外部性評価

【製造技術】

(i)製造技術革新による競争力強化

○情報通信技術を高度利用した暗黙知の体系化、製造プロセス一環シミュレーション等による飛躍的な生産性向上

○ナノテクノロジー・生物工学の応用、基礎工学での新知見や人間工学の活用等による製造工程変革

(ii)製造技術の新たな領域開拓

○微細化・複合高機能化の活用による高付加価値化技術（微小電気機械システム（MEMS）、マイクロマシン、高機能ロボット、マイクロリアクター、ナノ医療機器等）

○ナノテクノロジー等を応用した新製造工程技術や加工・計測技術の高度化

(iii)環境負荷最小化のための製造技術

○ライフサイクル全体を考慮した省エネルギー・新エネルギー・省資源対応技術

○循環型社会形成に適応する廃棄物の発生抑制、再使用・再資源化技術等

【社会基盤】

(i)安全の構築

(a) テロ、犯罪等への対策

○入国管理・税関検査技術の高度化、有害危険物質の検知・除染技術、捜査技術の高度化等

(b) 複合的な巨大災害被害軽減対策

○迅速・的確な災害対策技術、超高度防災支援システム等

(ii)美しい日本の再生と質の高い生活の基盤創成

(a) 質の高い生活基盤創成のための対策

○社会基盤を適切に維持・管理するための対策、安全で高質な交通システム・輸送機器等

【フロンティア】

(i)安全の確保

(a) 衛星による情報収集技術

○情報収集衛星の開発・打上げ、情報の有効利用等

(ii)世界市場の開拓を目指せる技術革新

(a) 輸送系の高信頼性化技術

(b) 衛星系の次世代化技術

○固定衛星通信の超高速化技術、高速移動体衛星通信・高精度測位技術、地球観測技術等

(iii)人類の知的創造への国際貢献と国際的地位の確保

(a) 基礎的・基盤的研究開発の推進と新たなフロンティア領域の開拓

○宇宙環境利用・宇宙科学研究、海洋資源利用・地球科学研究等

「平成17年度の科学技術に関する予算、人材等の 資源配分の方針」の構成（案）

1. 平成17年度に向けた基本的考え方

2. 科学技術の戦略的重点化

（1）基礎研究の推進

（2）国家的・社会的課題に対応した研究開発の重点化

①重点4分野

1) ライフサイエンス

2) 情報通信

3) 環境

4) ナノテクノロジー・材料

②その他の分野

1) エネルギー

2) 製造技術

3) 社会基盤

4) フロンティア

（3）国力の根幹を充実する基盤として必要な重要科学技術の精選・推進

（4）経済活性化のための研究開発プロジェクト

（みらい創造プロジェクト）の推進

（5）安心・安全な社会を構築するための科学技術の総合的・横断的な推進

3. 科学技術システムの改革等

（1）競争的研究資金の改革及び拡充

（2）産学官連携の推進

（3）研究開発型ベンチャーの振興

（4）地域科学技術の振興

（5）知的財産の戦略的活用

（6）各府省における研究開発評価システムの改革

（7）大学改革の推進

（8）大学等の施設整備

（9）科学技術活動の国際化の推進

4. 科学技術関係人材の育成・確保

5．科学技術を通じた心の豊かさの実現

6．重点化及び整理・合理化・削減の進め方

（1）各府省における取組

（2）総合科学技術会議における取組

①研究開発の評価

②科学技術関係施策の優先順位付け等

別表